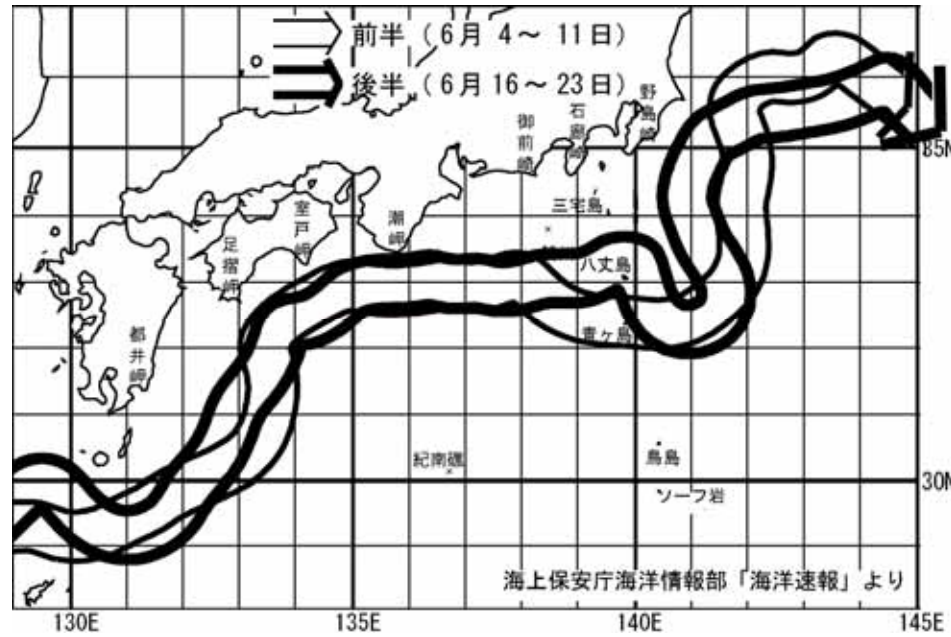


漁海況月報

平成27年 6月 1日

No. 6 ~ 6月30日

静岡県水産技術研究所
(電話 054-627-1815)
静岡県水産術研究所 伊豆分場
(電話 0558-22-0835)



6月定地水温の旬平均値() (下段は偏差)

期間	伊東	稲取	下田	雲見	沼津	焼津	地頭方
上旬	20.0	19.6	19.8	19.0	19.9	20.1	20.1
	0.0	0.5	0.4	-1.5	-0.7	-0.5	-0.2
中旬	20.5	20.1	19.7	19.3	20.3	20.7	20.8
	-0.6	0.5	-0.1	-2.0	-1.2	-0.4	-0.1
下旬	21.5	21.2	21.2	20.4	20.1	21.5	21.7
	0.0	0.5	0.4	-1.8	-2.0	-0.3	-0.1
月	20.7	20.3	20.2	19.5	20.1	20.7	20.9
	-0.2	0.5	0.2	-1.9	-1.3	-0.5	-0.2

[黒潮流路]

前半の黒潮は、遠州灘沖を東に進んだ後138E付近から南西に向かい、八丈島の南を通過して141.5°E付近を房総半島沖に向けて北上した。後半は、伊豆諸島付近の冷水域が東進し、八丈島の北側を通過した後に32.6N付近まで蛇行し、その後141°E付近を房総半島に向けて北上した。

[県下沿岸域]

月を通じて、相模湾側では稲取で「やや高め」の他は概ね平年並みであった。駿河湾東部では「低め」~「やや低め」、駿河湾西部では「平年並」であった。

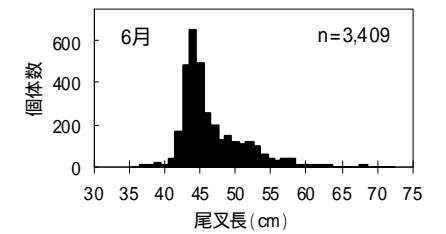
[竿釣カツオ]

6月の県内主要5港(沼津、清水、焼津、小川、御前崎)における近海カツオ水揚量は154トン(近海船6トン+沿岸船148トン)で、前年同期の79%であった。魚価は372円/kgで前年同期を上回った。

水揚げの多くを占める沿岸船は、31~34°N、139~140°Eの青ヶ島やハロースを中心とした伊豆諸島海域で、銘柄「小」(尾叉長44cmモード)を主体に漁獲した。

竿釣り(近海+沿岸船)カツオ水揚量(県内主要5港)

期間	水揚量(トン)	水揚隻数	平均水揚量/隻(トン)	平均単価(円/kg)
27年6月上旬	34	11	3.1	569
中旬	50	11	4.5	415
下旬	70	13	5.4	244
27年6月計	154	35	4.4	372
26年6月計	194	47	4.1	305
25年6月計	209	34	6.1	289



御前崎港における測定結果

[定置網]

伊豆半島東岸大型定置網7か統(伊豆山、古網、川奈、富戸、赤沢、北川、谷津)の水揚量は263トンで前年の同漁場の水揚量(300トン)の0.88倍であった。また、1か統あたりの水揚量は37.6トンで前年(42.9トン)の0.88倍、平年(昭和57~平成26年の平均61.7トン)の0.61倍であった。

魚種別の水揚量は、ブリ、シイラ、カタクチイワシの順に多かった。

7か統のうち、ブリは古網漁場が44%、次いで川奈漁場が28%を占め、水揚げの主体は、銘柄「わらさ」(体長66cm前後、体重4kg前後が主体)と銘柄「いなだ」(体長52cm前後、体重2kg前後が主体)であった。シイラは北川漁場が39%、伊豆山漁場が24%を占めた。カタクチイワシは北川漁場が45%、次いで伊豆山漁場と古網漁場が各々20%程度を占めた。さば類は北川漁場が50%、次いで赤沢漁場が21%を占めた。マルソウダは北川漁場が63%、次いで赤沢漁場が19%を占めた。

ブリは銘柄「わらさ」及び「いなだ」が主体で、それぞれブリ全水揚量の54%、45%を占めた。さば類は銘柄「ゴマサバ」が主体で、さば類全水揚量の84%を占めた。

漁場別の水揚量では、北川漁場が90トン(マルソウダ、カタクチイワシ、ゴマサバなど)、伊豆山漁場が50.1トン(マアジ、シイラ、カタクチイワシなど)、古網漁場が48.8トン(ブリ(わらさ、いなだ)、カタクチイワシなど)の順に多かった。

<参考表> 多獲された魚種の漁獲量と主な漁場

魚種	漁獲量(トン)	前年比	平年比	主な漁場
ブリ	53.5	2.8	3.1	古網、川奈
シイラ	41.7	1.9	2.0	北川、伊豆山
カタクチイワシ	40.3	0.7	0.8	北川、伊豆山、古網
さば類	39.0	0.5	0.3	北川、赤沢
マルソウダ	36.5	1,458.3	0.8	北川、赤沢

[サバたもすくい棒受網]

小川港にはゴマサバが932トン(前年同月比93%)水揚げされた。1隻あたり水揚量はゴマサバ25.9トン(前年同月比100%)であった。ゴマサバの1kgあたり平均単価は84円で前月(78円)を上回り、前年同月(85円)とほぼ同額であった。

棒受網はゴマサバ主体で、月を通じて三宅、三本に漁場が形成されたが、中旬には銭洲や中の瀬でも操業が行われた。ゴマサバは30~31cmにモードを持つ2歳魚主体であった。

小川港 さば類(たもすくい・棒受網漁業)水揚量

期間	水揚量(トン)		水揚日数	水揚隻数	水揚/隻(トン)		単価(円/kg)		漁場
	マサバ	ゴマサバ			マサバ	ゴマサバ	マサバ	ゴマサバ	
27年6月上旬	0	339	5	13	0	26.1	108	85	三本、三宅
中旬	-	329	5	13	-	25.3	-	83	三本、三宅、銭洲、中の瀬
下旬	-	263	4	10	-	26.3	-	85	三宅、三本
27年6月計	0	932	14	36	0	25.9	108	84	三宅、三本
26年6月	8	1,005	12	39	0.2	25.8	165	85	三本
25年6月	0	663	10	31	0	21.4	0	82	銭洲、三本、三宅

* 水揚量は、旬ごと、魚種ごとに四捨五入しているため月計と一致しないことがある。

* 表中の「-」は漁獲がごく僅かであったことを示す。

[サクラエビ船曳網]

平成27年春漁は5月31日夜で終漁し、6月の出漁は無かった。

[シラス船曳網]

1日1か統当りの水揚量は、駿河湾(静岡、吉田)が901kg、遠州灘(御前崎、福田、舞阪、新居)が1,037kgであった。主要6港平均の1日1か統当りの水揚量は992kgと前年同期(423kg)の2.35倍、平年同期(過去5か年平均:346kg)の2.87倍で前年同期及び平年同期を大きく上回った。また、総水揚量は2,603.2トンで前年同期(544.3トン)の4.78倍、平年同期(613.1トン)の4.25倍で前年同期及び平年同期を大きく上回った。平均単価は377円/kgで前年同期(382円/kg)及び平年同期(631円/kg)を下回った。

シラス水揚量(主要6港)

漁港	水揚量(トン)	延日数	延統数	平均漁獲量(kg/統)	平均単価(円/kg)
新居	261.8	20	235	1,114	294
舞阪	824.8	19	823	1,002	379
福田	515.7	19	504	1,023	405
御前崎	221.4	18	197	1,124	339
吉田	454.8	21	461	987	383
静岡	324.8	19	404	804	410
平成27年6月計	2,603.2	116	2,624	992	377
平成26年6月計	544.3	73	1,287	423	382
平成25年6月計	201.9	54	1,055	191	576

* 各港の数値は四捨五入しているため、各港合計と月計の値は一致しない場合がある。

* 平年同期:過去5か年(平成22~26年)平均値

[まき網]

マイワシの水揚げは小川港で1.0トンと平年同期(37.9トン)の2.6%、沼津港は11.0トンで平年同期(76.6トン)の14.4%であった。一方、カタクチイワシの水揚げは小川港で42.9トン、沼津港では31.0トンであった。静岡港ではマイワシは0.2トン、カタクチイワシは1.7トンと低調であった。相模湾側では、伊東港は0トンであった。なお、伊豆東岸定置網8か統のマイワシの水揚げは0トンであったが、カタクチイワシは40.6トンの水揚げがあった。

平年同期:過去5か年(H22~H26年)平均値

[調査船駿河丸の動向]

6月1日 ~ 6月3日	地先定線観測調査	(3日間)
6月4日 ~ 6月5日	いわし類卵稚仔分布調査	(2日間)
6月8日	公共用水域水質測定調査	(1日間)
6月9日 ~ 6月10日	サクラエビ産卵調査(KMT)	(2日間)
6月10日 ~ 6月11日	ゴマサバ標識放流調査	(2日間)
6月15日 ~ 6月17日	サクラエビ産卵調査(KMT)	(3日間)
6月18日 ~ 6月19日	ふく稚魚調査(TBCネット)	(2日間)
6月22日 ~ 6月26日	伊豆諸島周辺カツオ魚群分布調査	(5日間)
6月29日 ~ 6月30日	サクラエビ調査(カイト式ネット)	(2日間)

静岡県水産技術研究所のホームページ

パソコンからは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/>

携帯電話からは..... <http://fish-exp.pref.shizuoka.jp/mobile/>

右のQRコードをご利用ください。人工衛星NOAAの海面水温分布画像と関東・東海海況速報を見ることができます。

